

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

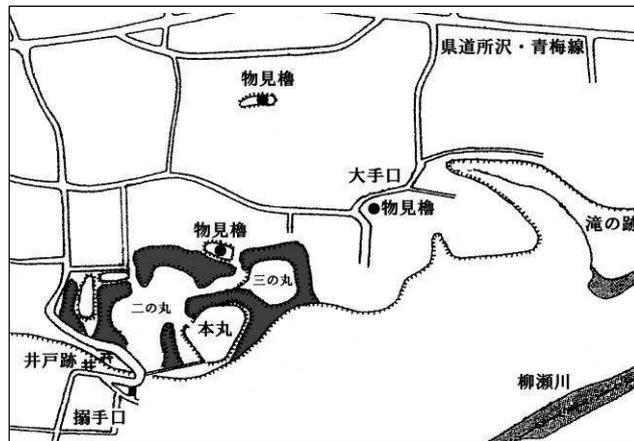
平成22年6月1日発行
編集・発行/富士見市立難波田城資料館
第44号
NEWS from NANBATAJYO

近くて遠い滝の城(所沢市)を訪ねて

市民学芸員 稲植 保美



滝の城本丸にある神社で記念写真



滝の城の縄張図(滝の城跡保存会作成図を修正)

館外研修として、3月27日(土)に市民学芸員19名で所沢市の「滝の城」を訪れました。前日まで天候不順が続き雨の心配もしましたが、見事に晴れ上がり城跡や柳瀬川沿いの散策を楽しむことができました。滝の城は、JR武蔵野線新座駅と東所沢駅の間位置し、駅から約2kmですが、富士見市から電車を乗り換えてゆくのは遠く感じ、近くにある城跡でありながらこのたびやっと訪ねることができました。期待の桜はまだつぼみでしたが、城跡公園内でカタクリ・二輪草がみられました。また、雨上がりのため、普段は流れていない城名の由来の滝も見ることができ幸いでした。

滝の城は、所沢市域の台地の縁を利用した平山城(丘城)で、城の広さは約87,000㎡といわれます。東南には柳瀬川、北に東川が流れ、2つの川に挟まれた自然の堅固な縄張り(設計)を持つ戦国期の典型的な城跡で、県指定史跡に指定されています。城主は、滝山城主などを務めた大石氏でした。その後、八王子城主北条氏照(大石氏の養子となり、継承後、北条姓に復する)の城になったと言われていました。城跡は、本丸を囲むように二の丸、三の丸、土塁、空堀などが比較的良好な状態で残されており、昔をしのぶことができました。

柳瀬川を挟んで滝の城の対岸にある東京都清瀬市清戸下宿には、清戸番所があったといえます。永禄7年(1564)に、北条氏照が番衆(警備をつかさどる近隣の武士)に印判状を出して、番所の請取・勤番を命じている「清戸番衆交代命令状」が残されています。清戸番所は、番衆が交代で、中15日の勤務にあたっていたとされます。滝の城は清戸番所を守るための城で、有事の際に籠城したものと考えられています。

平成12年の難波田城公園開園以来、市民学芸員は研修として以下の城跡を訪ねてきました。

県内：川越城(川越市)、忍城(行田市)、鉢形城(寄居町)、岩槻城(さいたま市)、松山城(東松山市)、岡城(朝霞市)、山田城(滑川町)、滝の城

県外：逆井城(茨城県) 白河小峰城(福島県)、赤塚城(東京都)、小田原城・石垣一夜城(神奈川県)、佐倉城(千葉県)
大部分は、近世城郭のような壮大な天守や石垣、水堀はなく、土塁や空堀を用いた中世城郭です。しかし、それぞれ秘められた歴史や特徴があり、城めぐりは興味深いものがあります。これからも研修を通じて見聞を広め、園内ガイドに生かせればと思います。

古民家のならわし 夏編

七夕のお話

一般的な七夕のならわしは、7月7日（場所によっては8月7日）に願い事を短冊たんざくに書き、笹竹に結んで飾り付けます。ここでは、七夕にちなんだ古くからのならわしやいわれを紹介します。

①七夕は五節句（1月7日・人日、3月3日・上巳、5月5日・端午、7月7日・七夕、9月9日・重陽）のひとつ 古くはまんじゅう、き

ゆうり、なすなどを供えて祝いました。

②七夕はもともと盆行事の一環 笹は祖先の霊が宿る依代（よりしろ）であり、富士見市等の関東以北ではマコモやわらで七夕馬を雄雌一対つくり先祖が乗れるように竹ざおにのせて飾りました。

③七夕は日本と中国の伝説の合作 機織津姫が村の災厄を除いてもらうため、天から降りてくる神の一夜妻になる古くからの日本神話と、奈良時代に伝わった牽牛けんぎゅうと織女オリヒメが天帝の機嫌を損ね、天の川をはさんで引き離され、年に一度7月7日の夜に会うことを許されたという中国の話から、現在の七夕が生まれたとされています。



難波田城公園での七夕



南畑地域のマコモ馬

おもしろ・なっかし体験 29

みそ・しょうゆのおにぎりづくり

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

「富士見のみそ・しょうゆ」の企画展に合わせて古民家(旧金子家)で3/14(日)と4/17(土)の2回、行ないました。

用意したのは、炊き立てのご飯・お味噌・醤油に、焼くための七輪と網です。

ご飯のお米は地元南畑産のコシヒカリ。お味噌は地元(東大久保)の「手作り村のふじみ育ち」という米味噌(赤味噌と甘口味噌)、愛知県の赤だし味噌、大分県の麦味噌、他に自家製米味噌。醤油はキッコーマンの濃口醤油・生醤油、川越市の「はつかり」再仕込醤油、大分県の濃口醤油・刺身醤油甘口と各種取りそろえました。

おにぎりは、参加者が丸・三角・太鼓・俵と好みの形に作り、好みの味噌や醤油をつけてできあがり。さらに七輪でこんがりキツネ色になるまで焼く人も。「昔は学校から帰ると一目散にお釜の中をのぞき、醤油や味噌のおにぎりを作っておやつにしたものです。焼きおにぎりは格別でしたね」と大人達の懐かし話を聞きながら、子ども達は自分で作ったあつあつのおにぎりに大満足。焼きおにぎりの焦げた匂いに誘われて、お子様連れの家族が多く参加しました。



おにぎり焼けたかな？



醤油と味噌のおにぎり

人の創った道具★人の使った道具

しょうゆ とっくり 醤油屋の徳利

展示は生きている

これから紹介する2点の資料は、5月9日まで開催していた「富士見のみそ・しょうゆ」で展示した資料です。しかし、その展示図録には掲載されていません。展示が始まってからも、他に関連資料はないかと意識し続けている中で存在に気づき、展示に追加した資料です。

徳利とは

徳利は、液体の保存・運搬用の容器で、指が入るかどうかがぐらいの小さな口が特徴です。語源は定かではありませんが、液体を注ぐ音が「とくりとくり」と聞こえるところから名づいたともいわれます。ガラス瓶が普及する前は、酒以外にも醤油や油など、さまざまな液体の容器に使われました。

貧乏徳利（通い徳利）

関東地方でかつて使われていた徳利の大半が「貧乏徳利」と呼ばれるものです。美濃焼きで、店の名前や記号が書いてあるのが特徴です。かつて庶民は、徳利を店から借り、酒や醤油を少しずつ量り売りしてもらいました。酒や醤油を樽ごと買うほど金持ちではないという、自嘲的なユーモアによる命名といわれます。



写真1 釘書きがある徳利
(谷津遺跡出土。市教育委員会蔵)

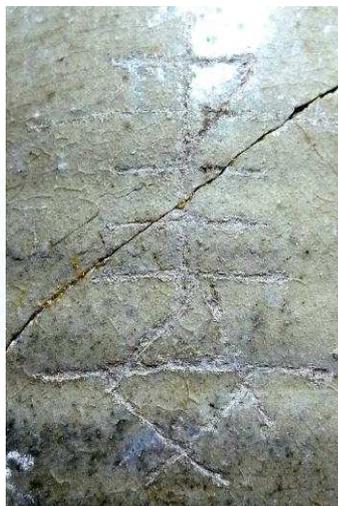


写真2 同 拡大



写真3 店名を焼き付けた徳利（当館蔵）

このコーナーでは、当資料館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

鶴馬の醤油屋の徳利

写真1・2は谷津遺跡(鶴馬1丁目)の幕末頃の地下室跡から出土した徳利です。よく見ると、薄い緑色の釉の上を釘のようなもので引っかけて「妻」の字が描かれています。江戸時代はこのように、既製品の徳利に目印として屋号や商標を書いていた。この徳利が見つかった場所は、当時富士見市域で最大の醤油屋だった「妻屋」の敷地だった可能性が高い場所です。貸し出し用に用意してあったものでしょうか。

妻屋は醤油の製造・販売のほかに酒の小売もしていました。写真の徳利はどちらに使ったか、においをかいでみましたが、よくわかりません。

写真3は、鶴瀬東地区の方から寄贈された徳利です。明治～大正時代の製品で、同じく醤油か酒に使ったものです。白い生地の上に、焦茶色の鉄釉で「鶴馬」「日野屋」と書いてから焼き上げています。このような、窯元に特注した徳利は、珍しいものではありません。東日本の各地に、同じ書体でその地域の店名が入った徳利が残っています。近代においては、徳利の字が目印にとどまらず、広告をかねる仕組みができてきたのです。

夏のイベント予定

●イメージキャラクター 作品展兼来園者審査

平成22年3月から5月までに応募のあった作品を展示します。応募作品148点の中から、気に入った作品を選んで、投票してください。あなたの選んだ作品が難波田城公園のキャラクターになるかも。投票者には賞金のチャンスもあります。採用作は今年の9月頃に発表する予定です。

日時 5月22日(土)～6月20日(日)

場所 難波田城資料館 特別展示室

●じゃがいも掘り

日時 6月27日(日) 午前10時～正午

定員 30組(申込順)

参加費 1組1,000円

持ち物 持ち帰り用の袋、シャベル、農作業ができる服装・靴、参加費

主催 難波田城公園活用推進協議会

申込み 6月2日(水)午前9時から直接または電話で

●竹かご教室

しかいなみはな
四海波花かごを作ります。

(昨年と同じ作品)

日時 6月26日(土)
午前10時～午後3時

定員 10人(申込順ですが、初めての方を優先)

参加費 1,000円(材料費)

指導 資料館友の会竹かご部会

申込み 6月1日(火)午前9時から直接または電話で



●ゆかた着付け教室

ゆかた
浴衣の着付けと帯結びを覚えます。

日時 7月3日(土)
午前10時～午後3時
(午前のみも可)

対象 中学生以上
定員 15人(申込順)

参加費 無料

持ち物 女性は、浴衣、下駄、半幅帯、裾よけ、伊達じめ、腰ひも2本、タオル3本、帯板、着物用肌着、コーリンベルト。男性は浴衣、帯、下駄。昼食。

指導 和道文化着装協会

申込み 随時、直接または電話で



●藍の生葉染め

藍の葉で絹のストールを染めます。

*詳しい内容については、広報ふじみ、チラシ等で案内します。

●夏休み古民家宿泊体験

市内在住の小学4～6年生を対象に開催します。

開催日 8月7日(土)～8日(日)

*詳しい内容や申込み方法は広報ふじみ7月号をご覧ください。

●ちよっ蔵市

(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月27日(日) ふかしいも

7月25日(日) 流しそうめん

8月はお休みです

※時間は午前11時から。売り切れ次第終了です。

＜開園時間について＞

4月から9月の間、公園の開園時間は午後6時です。資料館と古民家は午後5時までです。



なんばたじょう
難波田城
FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM

編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜日・日曜日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)